

## 情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会（第 56 回）

### 議事要旨

1 日時：令和 5 年 12 月 27 日（水）10:00～11:30

2 場所：Web 会議開催 (Cisco Webex)

3 出席者（敬称略）

【構成員】平田主査、石上主査代理、長谷山委員、秋山専門委員、上原専門委員、大西専門委員、熊田専門委員、清水専門委員、杉本専門委員、曾根専門委員、塚原専門委員、徳田専門委員、堀専門委員、松永専門委員、山口専門委員、山崎専門委員、山下専門委員、和氣専門委員

【関係者】雨宮氏 (VCCI 協会)、久保田氏 (TELEC)、松本氏 (NICT)

【事務局】総務省：内藤電波環境課長、今泉電波監視官、郷藤電磁障害係長、木村官

#### 4 議事

##### （1）CISPR 会議審議結果について

各作業班主任より資料 56-1 及び 56-2 に基づき説明が行われ、次に、石上主査代理より総会の審議結果について説明が行われ、その後、質疑応答が行われた。

質疑応答の後、情報通信技術分科会への報告に当たり、本質に関わりのない細かい字句修正等については主査及び主査代理の一任となった。

主な質疑応答の概要は以下のとおり。

平田主査：資料 56-1 3 ページの「装置数の増加」に記載されているシミュレーション結果について、使用する LED を 64 個としていることには何か理由があるのか。それとも、あくまで予備的な実験という扱いなのか。

松本関係者：予備的な実験という理解でいる。10 個から極端に増えた場合の変化を確認するための例。

平田主査：了解した。10 個以上増やしてもあまり変化はないということで、良い傾向ということかと思う。

平田主査：資料 56-1 2 ページの「40GHz までの放射妨害波」について、周波数を 40GHz から 43.5GHz へと拡張する際に発生する技術的な問題としてはどのようなものが考えられるか。

石上主査代理：現在は解消されているが、スペクトラムアナライザや測定用受信機等が 43.5GHz までの測定に対応しているかという問題があった。最近の測定機は 44GHz まで測定可能なものも増えているため、問題がなければ進めて良いとい

う方針になったという理解でいる。

- 大西専門委員：空間伝送型 WPT に係る PAS の発行について、「Radio beam WPT」と記載されているが、これは指向性を絞った WPT を対象としているものか。また、測定法の導入について、測定する周波数範囲をご教示いただきたい。
- 久保田関係者：今回検討されている PAS については、最終的に CISPR 11 への統合を目的としている。CISPR 11 については基本周波数が 400MHz を超える機器については 18GHz までの許容値が設定されており、それが適用されるというのが基本的な考え方。ただし、CISPR 11 の例外規定として、ISM バンドにおける許容値は定められていない。そのため、2.4GHz 帯や 5.8GHz 帯の空間伝送型 WPT については、高調波や副次的な発射は CISPR 11 に規定された許容値が適用されるが、基本周波数における許容値は規定されていない。なお、今回、PAS のスコープには「空間伝送型 WPT を ISM 機器として規定する場合にはこの規格が適用される」とする記載があるため、日本のように無線局として扱う場合には今回の PAS の適用外となる。
- 大西専門委員：24GHz 帯の WPT については対象外という理解で良いか。
- 久保田関係者：現時点では CISPR 11 に規定がないため、入らないという認識。今後、許容値の議論をする場合に 40GHz 以上の周波数への拡張について検討する必要がある。
- 大西専門委員：了。また、無指向性に近い空間伝送型 WPT についても対象外となるか。  
「Radio beam WPT」の beam が何を指すのか知りたい。
- 久保田関係者：無指向性の空間伝送型 WPT については PAS のスコープに含まれる。「Non-beam WPT」が磁界結合方式や電界結合方式の WPT を指すが、それ以外のものについて Radio beam WPT として呼称している。そのため、指向性の有無については考慮されていない。  
なお、現時点で検討されている測定法では、シンプルな 1:1 で送電を行う装置を数メートルの距離で対向させ、ターンテーブル上で測定を行う。そのため、前述のものとは違う方式の空間伝送型 WPT の場合は測定法としては適切でないようなこともあり、今後 DPAS 文書が発行された場合には意見照会を行うなどして検討する必要がある。
- 大西専門委員：対向させるというのは、測定用のアンテナを対向させるということで良いか。
- 久保田関係者：送電側と受電側をセットで対向させる。
- 山崎専門委員：CISPR/B/WG2 の活動について、資料 56-2 11 ページに「令和 2 年～4 年は WG2 の開催は見送られ、作業は進んでいない」と記載があるが、その後、活動は再開されたという認識で良いか。
- 久保田関係者：CISPR B 総会において WG2 コンビナーよりこれまでの経緯と今後の予定について報告があり、その後、WG2 は 12 月 14 日にオンラインにて開催されている。

(2) その他

事務局より、電波利用環境委員会報告（案）（CISPR 会議審議結果）については、1月18日（木）の情報通信技術分科会で本日の結果を踏まえて報告いただく旨連絡があった。

更に、次回会合は詳細決まり次第、メール等で通知する旨連絡があった。

(以上)